

理科学習指導案

1. 日時 令和 8年 1月 21日(水) 第 5 校時
2. 学級 第 1学年1組(男子 19人 女子 16人)
3. 単元名 「身近な物理現象」
4. 単元の目標 身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら理解するとともに、観察、実験等に関する技能を身につけること。

身近な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見だして表現すること。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

実験や観察に意欲的に取り組む生徒が多い。意欲的ではあるが実験操作の内容や意図を理解しきれずに実験に取り組み、実験結果は出たがその結果が何を示しているのかを理解できていない生徒も多くみられる。実験を行う前に仮説をたて、実験で行う内容を生徒が自ら見通し整理することで、実験の操作そのものだけでなく、実験結果の整理や考察までを意欲的に取り組むことができるようにする。

6. 単元の指導と評価の計画(全 15 時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	光の進み方	比較する 広げる	イメージマップ
第2時	光の反射	推論する	
第3時	光の屈折	推論する	
第4時	全反射	関係づける	
第5時	凸レンズの性質	推論する	
第6時	凸レンズの作図	応用する	ステップチャート
第7時	音の伝わり方	推論する	
第8時	音の大小と高低	比較する	
第9時	力のはたらき	分類する 比較する	Yチャート
第10時	力の大きさのはかり方	抽象化する	
第11時 (本時)	力の大きさとはねののびの関係	推論する 見通す	ステップチャート
第12時	前時の実験結果の発表	要約する	
第13時	重さと質量	比較する	
第14時	力の表し方	抽象化する	
第15時	2力のつりあい	抽象化する	

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標 力の大きさとはねの関係について仮説を立て、実験を計画し、実際に実験をして仮説を確かめる
- (2) 本時の評価規準【評価規準】力の大きさとはねの関係について仮説を立て、実験をして仮説を確かめている
- (3) 本時の学習過程

参観のポイント【生徒が仮説をたて、実験内容を考察する】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	ばねの性質について、各班で考察する。		
めあて：力の大きさとはねののびの関係について調べよう			
展開 40分	<p>ばねののびとはねにかかる力の大きさにはどのような関係があるのか仮説をたてる。</p> <p>各班で実験の手順を考え、実験手順をステップチャートにまとめる。</p> <p>各班で実験を行う。</p> <p>実験結果からわかることを考察し、仮説が正しいかどうかを検証する。</p>	<p>ばねののびは自然長からののびのことであることをふまえて、ばねにかかる力が大きくなると、ばねののびがどのように変化するかを予想させる。</p> <p>実験に使う可能性があるものは予め机に用意しておき、どのような実験を行うべきかをイメージさせやすくする。班で共通の目的をもって内容を考えるように促す</p> <p>実験結果には誤差がでることを確認する。</p>	<p>十分満足できる【A】 仮説を立証するために必要な実験内容を考え、実験に取り組むことができている</p> <p>満足できる【B】 班で考えた実験の手順を理解し、実験に取り組むことができている</p> <p>指導上の手立て【C】 班で共通の目的をもって実験に取り組むように促す。</p>
まとめ 5分	実験が適切であったか、仮説を確かめることができたかをふりかえる。		

英語科学習指導案

1. 日時 令和8年1月21日(水)第5校時
2. 学級 第1学年2組(男子18人 女子17人)
3. 単元名 「 My Hero 」
4. 単元の目標 好きな有名人やあこがれの人について英語で調べ、その人について説明できる。
その人について英語で発表することができる。
1年2組が紹介するヒーロー名鑑を作る。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル
授業内でペアワークやグループワークを取り入れ、コミュニケーションがとれる状態は常に作っているが、話すのが難しい生徒には個別に声かけを行っている。
今回の単元を通して、「広げてみる」「理由付ける」「順序立てる」という思考スキルを身につけさせたい。

6. 単元の指導と評価の計画(全3時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	好きな有名人やあこがれる人について調べる。 1人選んで、理由もつけながら英文を考えていく。	広げてみる 理由付ける	イメージマップ クラゲチャート
第2時 (本時)	ライップを使い、発表する内容を英文でまとめる。	順序立てる	ステップチャート
第3時	好きな有名人やあこがれる人について発表し、単元の振り返りを行う。		

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標 自分の好きな有名人やあこがれる人について、英文で作りまとめることができる。
- (2) 本時の評価規準【評価規準】
Unit8までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。【知・技】
好きな有名人やあこがれる人がどのような人なのかを伝えるために、その人物について聞き手の立場に立って書いている。【思・判・表】
好きな有名人やあこがれる人について、聞き手の立場に立って書こうとしている。【主】
- (3) 本時の学習過程
参観のポイント【ライップ(生成AI添削)を使い、発表する内容を英文でまとめている様子】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	・本時の学習の流れ ・前回の復習	・黒板に書いてある授業の流れを説明する。 ・イメージマップとクラゲチャートを用いて考えたことを思い出させる。	
めあて：好きな有名人やあこがれる人について思考ツールも使い、英語で説明することができる。			
展開 (40分)	・発表する内容を英語でまとめて作成する。(人物画像も入れる。)	・作成例を見せて、クラスルームにアップしていることを伝える。 ・できるだけ自分で英文を考えて作るよう促す。(難しいならライップを使って考えるよう伝える。) ・文章の組み立て方をステップチャートを用いて考えさせる。	【思・判・表】 【主】 Google スライド
まとめ (5分)	・次回、授業内で発表を行うことを伝える。		【知・技】 【思・判・表】 【主】 Google スライドを提出させる。

国語科 学習指導案

1. 日時 令和8年1月21日(水)第5校時
2. 学級 第1学年4組(男子18人/女子17人)
3. 教材名 「少年の日の思い出」
4. 単元の目標
 - ・場面と場面、場面と描写を結び付けて、作品を読み深める。
 - ・構成の工夫や表現の効果について考える。
5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

本学級の生徒たちは、意見を問うと答えられる生徒が多いが、理由の部分を説明する力が乏しい生徒が多い。そのため、準備をしっかりと行わずに話し合い活動を行うと、自分の意見は言っても根拠の部分が適切に説明できず、不十分な意見交流になってしまうこともある。よって、理由づけて説明する力を身につける必要がある。

6. 単元の指導と評価の計画(全6時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	・全文を通読し、内容を大まかにつかむ。 ・漢字や語句を確認する。 ・場面分けをする。		
第2時	・作品を前半と後半に分け、出来事を整理する。 ・登場人物について確認し、相関関係を図にまとめる。	要約する 関係付ける	コンセプトマップ
第3時 本時	・登場人物の人物像を確認し、比較する。	理由付ける 比較する	フィッシュボーン
第4時	・クジャクヤママユをめぐる「僕」の気持ちの変化を捉える。	変化を捉える	プロットダイアグラム
第5時	・最後の場面で「僕」がチョウを押し潰した行動について考える。	理由付ける	クラゲチャート
第6時	・現在の「客」が「思い出」をどう受け止めているかを考える。 ・学習のふりかえりをする。	理由付ける	クラゲチャート

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標
 - ・登場人物の関係を理解する
 - ・登場人物の人物像を確認し、比較する
- (2) 本時の評価規準【評価規準】
 - ・作品中の表現に基づき、2人の対照的な人物像を的確に把握し、まとめることができる。【思・判・表】【主】
 - ・2人の人物像の違いがわかるよう、自分の言葉でまとめることができる。【思・判・表】【主】
- (3) 本時の学習過程

参観のポイント【登場人物の人物像とそう言える根拠を生徒たちがまとめる姿】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	○本時の流れを確認する ○前回確認した登場人物の相関関係を復習する	・黒板に提示する。 ・前回のプリントを見ながら確認するように声をかける。	
めあて:「僕」と「エーミール」の人物像を確認し、比較する			
展開	○「僕」と「エーミール」の人物像とその根拠を個人でまとめる。 ○各自でまとめた2人の人物像を班で交流した後、全体で共有する。	・フィッシュボーンの使い方をスライドではじめに確認させる。 ・机間指導をしながら、手が止まっている生徒には、絞った範囲から探すよう声をかける。 ・発表の仕方を先に確認し、全員が自分のまとめたものを発表できるようにする。 ・班の代表が全体に発表できるように準備させる。	「僕」とエーミールの2人の人物像を的確に把握し、まとめることができる。 【思・判・表】【主】 (ワークシート)
まとめ	○「僕」と「エーミール」の人物像の違いを簡潔に文章化する。	・机間指導しながら、手が止まっている生徒には、フィッシュボーンを見ながら違いを一緒に確認し、自分で考えられるよう支援する。	2人の人物像の違いがわかるよう、自分の言葉でまとめることができる。 【思・判・表】【主】 (ワークシート)

家庭科学習指導案

1. 日時 令和8年1月21日(水)第5校時
2. 学級 第1学年5組(男子17人 女子16人)
3. 単元名 「日常食の調理と地域の食文化」
4. 単元の目標

食品調理の目的と調理方法を理解し、肉・魚・野菜の特徴や調理上の性質について普段の食事を振り返りながら理解を深めることができる。私たちが日常的に感じている「味覚」や「5つの基本味」について私たちが感じるおいしさとのつながりを理解できる。食品の適切な選択・保存の方法を個人で考えた後にペアワークで共有し、様々な意見や考えがあることを知り、よりよい方法を考えることができる。

地域の食材と地域の特性を反映した郷土料理や行事食を知り、多様な食文化の存在に気付くとともに、和食の特徴や調理を理解することができる。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

自分自身で普段の食事について振り返り、ペアワークや班で共有し様々な意見や考えがある中で話し合いに参加し、主体的に学ぶことができるようになってほしい。

イメージマップを使い、自分が知っている「味」や「料理」について広げることが望ましい。日本料理の「うま味」と「だし」との関係について映像教材より相乗作用について理解を深め、ピラミッドチャートを使い、2つの関係性について説明ができるようになってほしい。

肉、魚、野菜の調理ではイメージマップを使い、知っている情報を広げた後にYチャートで分類し、それぞれの特徴について理解を深めたい。

6. 単元の指導と評価の計画(全10時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	おいしく食べるための五感と5つの基本味	広げてみる	イメージマップ
第2時	日本料理のうま味とだしの関係	抽象化する	ピラミッドチャート
第3時	生鮮食品の選択と保存①生鮮食品について	比較する /分類する	ベン図 /Xチャート
第4時	生鮮食品の選択と保存②食中毒について	広げてみる	イメージマップ
第5時	肉の特徴と調理	広げてみる	イメージマップ
第6時	魚の特徴と調理	広げてみる/分類する	イメージマップ /Yチャート
第7時	野菜の特徴と調理	広げてみる/分類する	イメージマップ /Yチャート
第8時	加工食品の選択と保存	多面的に見る	フィッシュボーン

第9時	受け継がれてきた食文化	広げる	イメージマップ
第10時	持続可能な食生活を目指して	理由付ける	クラゲチャート

7. 本時の展開

(1) 本時の目標：生鮮食品の特徴がわかり、正しい選択と保存の方法がわかる。

(2) 本時の評価規準【評価規準】：食品について知っている情報を班で共有し、正しい食品の選択と保存の方法を考えられている【思・判・表】

(3) 本時の学習過程

参観のポイント【Xチャートを用い、個人で考えた内容をもとに班で協力して食品表示を完成させる】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	・2つの違いについてベン図を使い、比較する。	・発問：生のトマトと缶詰のトマトなにが違う？	・2つの違いについてベン図を使い、考えることができる。
展開	・教科書P124より生鮮食品と加工食品について知る。 ・プリントから肉と野菜の生鮮食品の表示に必要な情報を知る。	・教科書とスライドで生鮮食品と加工食品の違いを伝える。 ・生鮮食品の表示について必要な情報を肉、野菜の2パターンを提示する。	・2つの違いについてプリントへ記入ができる。 ・プリントの食品表示から必要な情報に気付くことができる。
まとめ	・4人班で生鮮食品の保存場所について意見を出し合い、Xチャートを完成させる。 ・黒板に貼りクラス全体へ共有する。	・Xチャートの作成が滞っている班に声かけや考えるためのヒントを個別に伝える。 ・1～2班を指名し、発表。 ・各班の発表を聞くよう指示。	・班での活動に参加できる。 ・班でまとめた意見を発表できる。

英語科学習指導案

1. 日時 令和8年1月21日（水）第5校時
2. 学級 第2学年1組（男子19人 女子18人）
3. 単元名 「Unit 7 世界遺産」
4. 単元の目標

Unit 7 では、受動態を扱う。過去分詞という概念を理解し、これまで学んできた英文と組み合わせることで、主語と目的語の関係を逆転させた受け身の英文を学ぶ。主語に何を置くかを考える過程で、異なる視点から物事を見る重要性、様々な視点を持つことで得られる気づきがあることを学ぶことができる。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

英語に苦手意識を持った生徒が多く、特に暗記を嫌う生徒が多いため、過去分詞の導入や受動態の導入においては、リズムに乗せたり、スライドを用いたりして、学習に取り組みたい。またTチャートやYチャートを用いて、平叙文と受動態の文の違い、疑問文・否定文の違いを視覚的に捉え、単語の順番を変える、または1語付け加えることで文の意味が大きく変わる英文の特徴に気づかせたい。これまで書いてきた文とは、視点を変えなければ、受動態の文を書けないので、英文を多面的にみるスキルを身につけさせたい。

6. 単元の指導と評価の計画（全9時間）

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	過去分詞を学び、受動態を理解する	多面的にみる	Tチャート
第2時	受動態を用いて、本文読解する	応用する	
第3時	受動態の否定文・疑問文を学ぶ	多面的にみる	Yチャート
第4時	受動態を用いて、人物紹介する	多面的にみる 具体化する	ステップチャート
第5時	受動態を用いて、本文読解する	応用する	
第6時	受動態を用いて、本文読解する	応用する	
第7時	助動詞と受動態を組み合わせる	関係づける	
第8時	受動態を用いて、本文読解する	応用する	
第9時 第10時	受動態を用いて、 世界遺産の紹介をする	具体化する	イメージマップ ステップチャート

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標

自分が紹介したい人物を、受動態を用いた英文で紹介する

- (2) 本時の評価規準【評価規準】

人物紹介する英文が、受動態を用いて書くことができる【思考・判断・表現】

英文を書く際に注目した点、気をつけた点などが記述できている【主体】

- (3) 本時の学習過程

参観のポイント【思考ツールで考えをまとめ、タブレットで情報収集をしている様子】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	スモールトーク 前時（受動態）の復習 本時の流れを説明	受動態の文と通常の文の違いをおさえる	
めあて：推している人物について調べ、具体的な紹介文を書こう			
展開 (40分)	推している人物についての情報をまとめる スライドを作成し、ロイロノートにアップロードする 提出スライドをいくつか発表する	ステップチャートに書きたい内容をまとめる スライドの作成に際しては、タブレットの活用を促す うまく受動態を使えているものや、具体性があるものを発表させ、生徒の理解を促す	人物紹介する英文が、受動態を用いて書くことができる【思考・判断・表現】
まとめ (5分)	本時のまとめ、ふりかえりを行う	受動態のポイントを提出スライドを用いて、確認する	

社会科学習指導案

1. 日時 令和8年1月 21日(水) 第5校時
2. 学級 第2学年2組(男子19人 女子17人)
3. 単元名 「北海道地方」
4. 単元の目標

北海道の自然・産業・人々のくらしの繋がりを理解し、なぜ北海道が日本の食糧基地と呼ばれるようなかを説明できる。さらに、北海道の強み(食糧生産・自然資源など)と課題(人口減少・冬の生活・輸送コストなど)を比較し、多面的にとらえる。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

日々の班活動において、協働的な学びを実践しようとする形ができつつある一方で、地理分野において各地方の気候や産業において地域をまたいだ「関連付け」が定着にしていない生徒がいるように見える。

今回の単元では、これまでに習った各地域の現状などもふまえ、雨温図や土地利用を「分析する力」、自然条件と産業の「因果関係」、農業発展に伴う「理由付けする力」を身に付けてほしい。

6. 単元の指導と評価の計画(全4時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	北海道の地形や気候に触れ、魅力と課題について考える	関連付ける	イメージマップ
第2時	自由進度学習・小テスト	多面的、多角的に見る	PMI
第3時	自由進度学習・小テスト		
第4時	北海道が食糧基地となった理由を説明する・小テスト	理由付ける	クラゲチャート

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標

北海道が日本の食糧基地と呼ばれる理由を、自然条件(気候・地形・海流)と産業(農業・漁業)の結び付き、食糧生産の規模の3つの視点から説明できる。

- (2) 本時の評価規準【評価規準】

雨温図、土地利用図、漁獲量などの資料を分析できる。

自然・産業・規模の3つの視点を多面的にとらえているか。

根拠、理由、結論の順にまとめることができるか。

- (3) 本時の学習過程

参観のポイント【主体的に取り組む姿勢】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト(10分) ・北海道の農業生産額が日本一という点を復習する(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・監督する ・食糧の生産量が他の地域よりも多いことを確認する。 	北海道地方の小テスト 【知識】
めあて：なぜ北海道が日本の食糧基地と呼ばれるようなのか考える			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動、調べ学習 今までに習った知識や、新しく調べたことをもとに、めあてにそって、学習する。(25分) ・代表者発表(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・班員で協働できるか。 ・調べたことをクラゲチャートにまとめ、最後に文章でまとめることができるか。(行動観察) 	自然・産業・規模の3つの視点を多面的にとらえているか。 【思考・判断・表現】
まとめ	振り返りシート記入(5分)	・今日のポイントを整理できているか。支援がする。	振り返りシート 【主体的に取り組む態度】

数学科学習指導案

1. 日時 令和8年1月21日(水)第5校時
2. 学級 第2学年3組(男子 18人 女子 18人)
3. 単元名 「三角形と四角形」
4. 単元の目標

三角形と四角形についての性質などの基礎的・基本的な知識や技能を活用して、論理的に考察し、表現するなど、数学的な見方や考え方を身に付ける。

証明について振り返ったり、発展的に考えて証明したり、しようとする態度を養う。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

1年次から教え合い、助け合いを多く取り入れている為、班での教え合いが定着している。その為、教え合うことに抵抗はないが、どのように教えればよいかかわからず、教える生徒に偏りがあるように感じられる。また、教える側の生徒から「この解答は正解なのかわからない」といった、別解答の質問も多い。そこで、「多面的にみる」思考スキルを身に付け、解答を別視点でとらえることができるようにしたい。更に、思考ツールを使って、多面的にみた内容を視覚的にまとめることで、説明に活かし、主体的な学びにつなげていきたい。

6. 単元の指導と評価の計画(全13時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	二等辺三角形の性質を理解し、証明する	比較する・関連付ける	
第2時	二等辺三角形になる条件を理解し、二等辺三角形を見つける		
第3時	逆と反例の意味を理解する		
第4・5時	直角三角形の合同をみつけ、証明する		
第6	証明を見比べて、考察する	比較する	
第7	平行四辺形の性質を理解し、証明する	関連付ける	
第8・9時	平行四辺形になる条件を理解し、平行四辺形を見つける		
第10・11時(本時)	平行四辺形になる条件の活用をし、性質をまとめる	比較する・多面的にみる	フィッシュボーン
第12時	特別な平行四辺形の性質を理解し、証明する	比較する	
第13時	平行線と三角形の面積の関係について考える		

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標 前回までの三角形と平行四辺形についてまとめ、多面的に見る
- (2) 本時の評価規準 平行四辺形になる条件を使って証明したり、しようとする態度【主】
三角形と平行四辺形を多面的にとらえ、ツールにまとめることができる
まとめたツールを元に、説明することができる【思・判・表】
- (3) 本時の学習過程

参観のポイント【三角形と平行四辺形を多面的にとらえ、まとめる様子】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入	前回の振り返り 本時の授業展開確認	最後にまとめることを言うておく	
めあて：平行四辺形になる条件から証明をすることができる			
展開	課題を提示し、解き方の見通しを立て、解く 個人から班 別解答の方法もあること伝え、いろいろな方法があることを考えさせる	解答が1つではないので、途中の内容にも注意して見る 難しい生徒には、ヒントを与える	1つに定まらない証明を、多面的に見て、解こうとしている 他の解き方を見て、自分の解き方と比較している
まとめ	思考ツールの配布・説明 1つの内容について、多面的に考える	例を数点あげるが、言い過ぎないようにする	自らの表現でまとめることができる

理科学習指導案

- 1、日時 令和8年1月21日(水) 5限
- 2、場所 2年4組(第1理科室)
- 3、学級 2年4組36名(男子18名、女子18名)
- 4、単元 「地球の大気と天気の変化」
- 5、単元の目標 理科の見方・考え方を働かせながら、気象とその変化に関する探究的な学習を通して、天気の変化や日本の天気の特徴の理解を深めさせるとともに、観察・実験などを行うために必要な基本的技術を習得させ、思考力・判断力・表現力や主体的に探究しようとする態度を養う。

6、生徒の実態と身につけたい思考スキル

近年、天気予報などの気象情報をメディアを通じて手軽に入手できるようになってきた。しかし、生徒にとって天気の変化は身近であるが、興味・関心は必ずしも高いとは言えず、その仕組みを理解して気象情報を活用している生徒は少ない。そこで、本単元では天気の変化に関する基礎知識を理解させ、身の回りの気象現象に興味・関心をもって積極的に気象情報を活用する力を養うことをねらいとする。

そのために高めたい思考スキルは「変化をとらえる」「関連づける」「上げてみる」とする。

気温や湿度などの気象データや天気の観測データを正確に記録し、その前後における変化について、正しくとらえる、また、そのようなデータと霧や雲の発生実験・観察におけるそれらのでき方とを関連づけて理解すること、気象現象を全地球的に時間的・空間的スケールを広げても同様に変化をとらえ、気象要素と天気の変化の関係や気象現象の仕組みを理解させることを目的とする。

7、単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
気象要素、気象観測、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けている。	気象観測、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化、日本の気象について、見通しをもって解決する方法を立案し観察・実験を行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見出して表現しているなど、科学的に探究している。	気象観測、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化、日本の気象について、進んでかかわり、見通しを持ったりふりかえったりするなど科学的に探求しようとしている。

8、単元の指導と評価の計画(全22時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	地球の大気と天気の変化	変化をとらえる	
第2時	大気の中ではたらく力		
第3時	大気の圧力	応用する	
第4時	大気の様子を観察する	変化をとらえる	ステップチャート
第5時	天気と気圧、気温、湿度の関係	関連づける	
第6時	霧のでき方		
第7時	上昇気流と下降気流	関係づける	ベン図
第8時	自然界における雲のでき方	関係づける	コンセプトマップ
第9時	空気中の水蒸気量	応用する	
第10時	飽和水蒸気量と露点	応用する	

第11時	湿度と飽和水蒸気量	応用する	
第12時	風がふくしくみ		
第13時	大気の動きと天気の変化	広げる	イメージマップ
第14時	日本付近の気団のでき方	関連づける	コンセプトマップ
第15時	寒冷前線と温暖前線	構造化する	
第16時	日本付近の大気の動き		
第17時	日本の四季の変化	変化をとらえる	ベン図
第18時	日本の季節の特徴	理由づける	フィッシュボーン
第19時	日本の天気予報	推論する	キャンディチャート
第20時	太平洋側と日本海側の天気	分類する	ベン図
第21時	天気の変化と災害	推論する	キャンディチャート
第22時	災害の仕組みと備え	推論する	キャンディチャート

9、本時の展開(第18時)

- (1) 本時の目標 日本付近の季節を季節ごとに特徴的な天気図を分析することによって推論する。
- (2) 本時の評価規準【評価規準】季節ごとの天気図の違いや特徴を見出しているかどうか。
- (3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入(5分)	○前回の授業のふりかえり めあて：天気図の特徴より季節を特定しよう		
展開(35分)	○日本の各季節の天気図の特徴を確認する。 ○情報項目をフィッシュボーンに書き出しておく。 ○季節が不明な天気図から、その特徴を見出し、情報を箇条書きでフィッシュボーンに列挙していく。 ○班で協力して未把握の情報を共有する。 ○複数の情報から、その天気図の季節を班で話し合って推定する。 ○他の班の発表より情報を共有し、適宜修正を行う。	○前時の天気図を再提示する。 ○見出す必要のある情報項目を提示する。 ○フィッシュボーンの同じ場所には同じ項目の情報が書かれるように指導する。 ○作業に行き詰るタイミングで班活動の指示を行う。 ○各班から確定した天気図と季節を根拠を示させながら発表・説明させる。	○必要な気象情報項目・気圧配置・等圧線の特徴・前線の種類・各地の天気・風力風向 ○自分が得た情報を班のメンバーに発信しているかどうか。 ○他の班の発表と自分の班の内容を比較して聞くことができているか。
まとめ(10分)	○各季節の特徴を表にまとめる。 ○ふりかえりを行う。	○フィッシュボーンの情報表をまとめる。 ○授業の要約を話し、ふりかえりとしてまとめさせる。	

社会科学習指導案

1. 日時 令和8年1月21日(水) 第5校時

2. 学級 第3学年1組(男子18人 女子17人)

3. 単元名 「 私たちの生活と経済～抜け出せ!『失われた30年』～ 」

4. 単元の目標

- ・現代の金融の仕組みやはたらき、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解する。
- ・対立と合意、効率と公正、希少性などに着目して、経済活動における金融・財政の役割について多面的・多角的に考察、表現できる。
- ・国民の生活と政府・日本銀行の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

前単元では、企業の競争がもたらす効果・影響を考察したり、年功序列終身雇用の雇用形態と流動性の高い成果主義の雇用形態を比較検討したりすることで、現代社会に見られる課題に向き合うことができた。また、これらの考察の際に思考ツールを活用することで、自分の考えをまとめることができるようになってきている。

今回の単元では、特に「構造化する」「評価する」「推論する」これらの思考スキルの育成を図りたい。また、単元を通して、『失われた30年を抜け出す方法を探る』という課題を設定し、現代社会の課題でもある「為替の問題」「金融政策」「財政政策」について考察する。考察に際しては、現代社会の現状や諸政策の効果などを「構造化」・「推論」することでとらえたり、協働学習と通じて多様な「評価」軸で追究したりする。

6. 単元の指導と評価の計画(全7時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	グローバル化と為替相場 ・為替相場がどのように決まり、どのような影響を持つかを考察する。	構造化する	ピラミッドチャート
第2時	金融のしくみ ・銀行が経済活動に果たす役割を考察する。	推論する	
第3時	財政のはたらき ・資本主義経済における政府の役割を考察する。	評価する	PMIシート
第4時	政府の活動を支える税 ・公正な税負担のあり方について、多面的・多角的に考察する。	多面的・多角的に考える	
第5時	財政の変化 ・日本における国債発行の現実を知り、将来の財政について考察する。	評価する	PMIシート
第6時(本時)	政府・日本銀行が担う景気対策 ・経済の状態に応じて、政府と日本銀行が行う経済政策を考察する。	推論する	ピラミッドチャート ステップチャート
第7時	抜け出せ!『失われた30年』 ・現在の日本経済を好転させる方法を考察する。	多面的・多角的に考える	

7. 本時の展開

(1) 本時の目標 経済の状態に応じた政府と日本銀行が行う経済政策を考察することができる。

(2) 本時の評価規準【評価規準】

経済の状態に応じた政府の財政政策や日本銀行が行う金融政策の効果と影響を考察し、表現することができる。【思考・判断・表現】

(3) 本時の学習過程

参観のポイント【ピラミッドチャートもしくはステップチャートを用いて、財政政策や金融政策の効果と影響を考察する生徒の様子】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入(10分)	○前時までの復習 ○「不景気とは、どのような状態か」を考えて、発表する。《個人→班》	・これまでの学習やニュースなどで知ったことを参考に考えるように声をかける。	
展開(40分)	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて：政府と日本銀行が行う経済対策を考察する。</p> <p>○日本銀行が行う金融政策と政府が行う財政政策を考察する。 【政府】 ・不況時：1・2班 ・好況時：3・4班 【日本銀行】 ・不況時：5・6班 ・好況時：7～9班 《個人→班》</p> <p>○政府・日本銀行の立場で、それぞれの班の経済対策を全体で発表する。</p>	<p>・ロイロノートでピラミッドチャート、もしくはステップチャートなどを用いて、効果・影響を検証する。</p> <p>・前時までの学習で学習した、市場に流通する通貨量を調整する方法に着目するように声をかける。</p> <p>・各班の追究を発表することで生徒の学びをつなげる。</p> <p>・聞き手は、マスコミの立場で疑問などがあれば質問させることで、批判的な思考を促す。</p>	<p>・政府や日本銀行の経済対策の効果と影響を思考ツールにまとめることができる。(ロイロノート) 【思考・判断・表現】</p> <p>・政府や日本銀行の立場で、経済対策の効果を表現することができる。(発表) 【思考・判断・表現】</p>
まとめ(5分)	<p>○政府の財政政策・日本銀行の金融政策をワークシートにまとめる。</p> <p>○『失われた30年』を抜け出すために政府や日本銀行がとるべき対策を考える、まとめる。</p>	<p>・実際の経済の動向では、過剰な財政政策や金融政策が円安をまねき、経済を押し下げられる場合もあることを抑える。</p> <p>・</p>	<p>・現在の日本の経済状況を踏まえて、経済対策の考えることができる。(ワークシート) 【思考・判断・表現】</p>

理科学習指導案

1. 日時 令和 8年 1月 21日(水) 第5校時
2. 学級 第3学年2組 35人
3. 単元名 「エネルギー資源とその利用」
4. 単元の目標

様々なエネルギーとその変換に関する観察・実験を通して、日常生活や社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを見出して理解できる。また、人間は、水力、火力、原子力、太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識できる。

日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察・実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断できる。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

単元の始まりでは、自分の生きてきた経験やこれまでに学んできたことを関連付けながら予測を立てている。実際に観察や実験を、見通しを持って行い、その結果を比較、分類、関連付け、

6. 単元の指導と評価の計画(全 4時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	様々なエネルギーの変換	多面的にみる 分類する	PMI
第2時	エネルギーの利用上の課題	見通す	
第3時	放射線の種類と性質	構造化する 関連付ける	ピラミッドチャート
第4時	エネルギーの有効利用	広げる 比較する	ウェイピング

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標

日常生活や社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを見出し、様々な発電方法を多面的にみることを通して、エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識できる。

- (2) 本時の評価規準【評価規準】

十分満足できる(A)	おおむね満足できるB	努力を要する子供への支援C
電気エネルギーは様々な方法で発電されていることを理解し、エネルギー資源を有効に利用する大切さを理解している。	エネルギー資源を有効に利用する大切さを理解している。	様々な発電方法には長所と短所があることを説明する。

- (3) 本時の学習過程

参観のポイント【様々な発電方法を分類し、多面的にエネルギー資源の大切さを見出す場面】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・復習問題 ・本時の流れを確認 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> めあて：様々な視点から「エネルギー資源の大切さ」を知ろう。 </div>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・視点①：「消費」について学ぶ ・視点②：「電気エネルギー」について学ぶ ・視点③：「発電」について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活との関りを捉える ・2種類の円グラフを用いて、視覚的に関連性を見出す ・個人→班の順で考え、自分の視点と他者の視点を共有する 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・視点④：「あなたの考え方」についてまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面設定を行い、本時をふりかえる 	【思考・判断・表現】

英語科学習指導案

1. 日時 令和8年 1月21日(水) 第5校時

2. 学級 第3学年3組(男子17人 女子18人)

3. 単元名 「Unit6 What does it mean to be a global citizen?」

4. 単元の目標

国を超えて助け合うことの大切さを知り、願いや思いを伝えることができる。

仮定法と主語を説明する関係代名詞を用いた文の形・意味を理解できる。

仮定法の文の理解をもとに、現実とは異なる願い事などを伝える技能を身につけることができる。

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

Unit5では、教科書の内容に入る前にKWLチャートを使うことで、他教科で学んだ知識の共有と何を意識して読むべきかが明確になった。また生徒の振り返りから、KWLチャートを通じて、本文の内容を理解するだけではなく、英語を通じて教科書の内容を知れたという感想があり、思考ツールの効果を感じた。Unit6においては、学習を通じて社会が抱える問題を知り、今後自分たちが地球市民として何ができるのかを考えさせたい。思考ツールを活用することで、物事を「多面的にみる」力、社会の出来事を自分ごとに「関連づける」力、そして身近な行動に移すための「アイディアを出す」力を身につけさせたい。

6. 単元の指導と評価の計画(全11時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	世界の子供たちの状況や気持ちを理解するために、現実とは異なる願いについて書かれた文を理解したり、自分の願いを伝えたりすることができる。	多面的にみる 関連づける	KWLチャート クラゲチャート
第2時	国を超えて助け合いたいという気持ちを伝えるために、できたらいいと思うことを伝え合うことができる。	多面的にみる アイディアを出す	KWLチャート イメージマップ
第3時 第4時 第5時	国を超えて助け合うことの大切さを理解したり伝えたりするために、国際社会の状況について書かれた文章概要や要点を捉えることができる	分類する 関連づける	KWLチャート
第6時 第7時	国を超えて助け合うことの大切さを理解して、地球市民として何ができるのかを多面的に考え、自分の考えを書くことができる	多面的にみる アイディアを出す 関連づける	KWLチャート クラゲチャート イメージマップ Yチャート

7. 本時の展開

(1) 本時の目標 地球市民の一人として何ができるのかを考え、自分の思いを書くことができる。

(2) 本時の評価規準【評価規準】

・国を超えて助け合うことの大切さを理解し、地球市民として何ができるのかを、事実や自分の願い、思いを整理し、簡単な語句や文を用いて書いている 【思・判・表】

・国を超えて助け合うことの大切さを理解し、地球市民として何ができるのかを、事実や自分の願い、思いを整理し、簡単な語句や文を用いて書いている 【主】

(3) 本時の学習過程

参観のポイント【本時までに活用した思考ツールを活用し、自分の思いを書く生徒の様子】

時間	学習内容・学習活動 ○教師の活動 ☆生徒の活動	指導上の留意点 ●指導上の留意点 ★理解が不十分な生徒への手立て	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○本時の流れの確認 ☆前時の復習	めあて：地球市民として何ができるのかを多面的に考え、 自分の思いを書くことができる	
展開 40分	☆世界の現状の問題ごとに集まり、意見交換する ☆世界の現状とそれに対して自分がとっていききたい行動をまとめる。 ☆自分の思いを書く課題であることを確認する。		●社会的な内容になり、難しくなるので日本語で意見をまとめさせる。 ●意見交換した内容やこれまでの授業の内容から、自分がとっていききたい行動をまとめさせる。 ★日本語で伝えたい内容をまとめ、ライップ(生成AI添削)を使用して文章を作成するように指導する
まとめ 5分	○次回、他の人の文章を読み感想を書くことを伝える。		【思・判・表】 【主】 (ワークシート)

国語科学習指導案

1. 日時 令和8年 1月 21日(水) 第5校時
2. 学級 第3学年4組(男子 17人 女子 17人)
3. 単元名 「故郷」
4. 単元の目標

作品の展開の仕方を捉えて、登場人物のものの見方や考え方について考えながら、作品を読み深めることができる。

作品を読み、社会の中で生きる人間について、自分の考えを持つことができる

5. 生徒の実態と身につけたい思考スキル

班活動やペア学習など学びに向かい積極的に取り組み姿が見受けられ、書く力、話す力の能力が上がっている一方で読む力は弱い。特に登場人物の心情の変化や真意を捉える力が弱い生徒が多い傾向があるように思われる。

今回の単元を通して、これまでの思考スキルは継続のまま、「推論する」思考スキルを身につけてほしい。

推論する際には、フラワースークルで登場人物の願いをまとめ、具体的に言い換えたものをクラウドに書き、それらを共有する活動などをする。

6. 単元の指導と評価の計画(全5時間)

時	主な学習活動・内容	発揮する思考スキル	使う思考ツール
第1時	あらすじ、登場人物の相関関係確認。	分類する	
第2時	昔と今の故郷の印象を比較し「私」の心境を捉える。 過去の場面における「私」とルントーの関係を確認する。	分類する 比較する	ベン図
第3時	ルントーとヤンおばさんについて 過去と現在の様子を対比する 「私」とルントーの再開の場面におけるそれぞれの思いを読み取る。	分類する	
第4時 本時	「私」の願いを読み取り、作品の主題は何かを考える。 振り返りを書く。	推論する 構造化する	フラワースークル ピラミッドチャート
第5時	作品の主題をまとめる。 振り返りを書く。		

7. 本時の展開

- (1) 本時の目標: 「私」の願いを推論し、共有する
- (2) 本時の評価規準【評価規準】
文章に表れているものの見方や考え方について考えている。
- (3) 本時の学習過程

参観のポイント【 登場人物の思いを通じて主題を導こうとする姿 】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	◇前回の内容をおさらいする。 ◇本時の内容を確認する。		
めあて: 中心人物の思いから作品テーマが何かを考える			
展開 40分	○フラワースークルに中心人物である「私」の願いを書き込む。 ◎自由に移動し、友達の考えを書き足す。 ○「私」の考えを具体的に言い換えて、クラウドの中に書く。 ○ピラミッドチャートで、作品の主題は何かという文章を書くための構成を作る。	・「私」の考えを本文中を読み取り書くようにさせる。 ・移動するにあたって、フラワースークルは必ず完成させるように伝える。 ・「私」の気持ちに寄り添ってクラウドに「私」の考えを書かせる。 ・クラウドの言葉を手掛かりにピラミッドチャートを活用し構成を組み立てるように指示する。	文章に表れているものの見方や考え方について考えている。【思・判・表】【主】
まとめ 5分	○本時の振り返りを書く		